

音楽芸能スタッフ科 企画制作コース
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	PC知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	プロダクトデベロップメント I	68	2	2
実習	デザイン I	68	2	2
演習	企画制作基礎 I	68	2	4
演習	企画制作応用 I	68	2	4
演習	スタッフワーク基礎 I	68	2	4
演習	スタッフワーク応用 I	68	2	4
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	46

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
到達目標					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身につける。 ・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ
【前期】 8～10回目	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語) ・敬語を使った自己紹介文作成
【前期】 11～13回目	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方) ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	<ul style="list-style-type: none"> ■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアビジョン(自己分析) ・自己PR、志望動機作成
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書作成 ・エントリーシート作成
【後期】 25～27回目	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識、SPI対策
【後期】 28～30回目	<ul style="list-style-type: none"> ・面接対策
【後期】 31～34回目	<ul style="list-style-type: none"> ■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ることで、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
<p>①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。</p> <p>②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。</p>					
到達目標					
<p>・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。</p> <p>・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 4～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～10回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 11～13回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 21～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	■ドラムの講師、楽曲制作とアーティストの面から舞台音響、照明、シナリオ作成、舞台進行を行う。 ■SAX奏者として活躍後舞台音響技術者として活躍。公共ホールなどで舞台運営業務に従事する。				
授業概要					
①演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など舞台業界裏方として会館、公共文化施設、ホール、演芸場、ライブハウス等への出入りの際最低限の電気に関する知識の習得、劇場、ホール等の舞台機構や公演製作等の基礎知識を学び舞台技術基礎を取り入れる事により現場でのコミュニケーションを円滑にし、優れた創造性の基盤をつくりあげる。					
到達目標					
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け校外現場にも対応可能にし社会人として業界人として活躍出来るよう学習する。 ・実際に民間劇場での実習を行い様々な用語舞台設備等の確認、現場にて劇場等での電気に対する理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	電気・電流に関する講義① ・電気と？
【前期】 4～7回目	電気・電流に関する講義② ・感電の恐怖及び対策。
【前期】 8～10回目	電気・電流に関する講義③ ・電気極性について。
【前期】 11～13回目	電気・電流に関する講義④ ・電流について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合格を決める。
【後期】 18～20回目	劇場舞台に関する講義① ・劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 21～24回目	劇場舞台に関する講義② ・劇場舞台照明電源について。
【後期】 25～27回目	劇場舞台に関する講義③ ・劇場舞台に必要な電気知識。
【後期】 28～30回目	劇場舞台に関する講義④ ・舞台全般電気知識を極める。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合格を決める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	エンタメに関わる人材として安全面は最重要事項です。電気の特性を理解し、電気知識の学習にしっかりと励んで下さい。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
①情報リテラシーとして肖像権、パブリシティ権、著作権、知的財産権等についての講義をする。 ②表計算ソフト(EXCEL)を使って、資料を分析する問題(主に国家公務員試験の過去問を使用)を解く。 ③プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方を知るために、検定試験の問題を解く。					
到達目標					
①情報化社会におけるリテラシーを学び、ネット社会の光と影を学び、将来にわたり安全にネットを使えるようにする。 ②今後の仕事上、様々な場面で表計算ソフト(EXCEL)を使用することが多くなると予想されるので、その使い方の基本 とどのように使えば良いのかの応用を学び、スムーズな社会生活を送れるようにする。 ③自分の意見や考え方を発表するプレゼンテーションをスムーズに出来るように、そのソフトPowerPointの使い方の基本を学び、将来に役立たせる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権法の目的、著作物の要件、著作物の種類、著作者とは(著作者、共同著作)、職務著作、映画の著作者、著作者人格権、保護期間、著作隣接権、著作権侵害されたときの対処法
【前期】 4～7回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:PART1 例1～例5
【前期】 8～10回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問1～問3
【前期】 11～13回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問4～問6
【前期】 14～17回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト:PART2 問7～問10
【後期】 18～20回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問11～問14
【後期】 21～24回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問15～問18
【後期】 25～27回目	「データ分析NO3(情報分析の仕方)」のテキスト: 問19～問22
【後期】 28～30回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問23～問26
【後期】 31～34回目	プレゼンテーションソフトの使い方:検定試験の問題を解く
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上記講義内容を基本としますが、IT社会の基本としての講義(光や色の三原色、音の基本、動画の基本など)を入れ込み広い知見を得られる授業にしていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	イベント制作知識 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ドラマアシスタントプロデューサー、音楽系マネージャー歴3年、俳優系マネージャー歴6年、映画アシスタントプロデューサー、タレントマネジメント歴21年経験。その経験を活かし、タレント・アーティストのスケジュール管理方法や著作権などのマネージャーに必要な基礎知識の講義を行う。				
授業概要	イベントを企画する際に必要なノウハウを学習する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エンタメ業界で一番大事なコミュニケーション力を身につける訓練 ・エンタテインメント業界の内容を知る事で繋がりが流れが理解できるようになり、企画の完成度を高める ・著作権を学ぶことでミュージックビジネスの基本を知り、音楽イベントを円滑に行えるようになる 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	授業内容説明 業界用語・エンタテインメント基礎知識
【前期】 4～7回目	ライブイベントビジネスの著作権(しくみと動向)
【前期】 8～10回目	ライブイベントビジネスの著作権(しくみと動向)
【前期】 11～13回目	ライブイベントビジネスの著作権(必須知識編)
【前期】 14～17回目	試験対策 ■前期試験:筆記試験を実施。:著作権 & 業界用語に関する穴埋め問題にて理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ライブイベントビジネスの著作権(必須知識編) 台本の読み方と理解
【後期】 21～24回目	ライブイベントビジネスの著作権(実践編) 香盤表の理解と作成
【後期】 25～27回目	ライブイベントビジネスの著作権(実践編) スケジュール台帳の作成及び解説
【後期】 28～30回目	ライブイベントビジネスの著作権(実践編) 試験対策
【後期】 31～34回目	試験対策 ■後期試験:筆記試験を実施。:著作権 & 業界用語に関する穴埋め問題にて理解度を問う。 一年次講義内容まとめ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	知識、情報を自らの方法と手段で会得する発想を身につけ対象生徒、全員参加による相互の意見交換と収集した情報から他者と自らの発想の相違点に気づき、柔軟性のある思考を身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プロダクトデベロップメントⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	プロダクトデベロップメントⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	フリーランスとして10年以上に渡りデザイン事務所、Web制作会社や雑誌編集部において様々なデザインやマーケティングに関する業務に携わる。 上記の経験を活かし音楽業界におけるグッズの商品開発及びマーケティングに関する実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①イラストレータのスキル・グッズ制作に適したデザインを身につけながら、何をいくらで売れば良いかなどのリサーチ力も養うことで、なるべく実戦向きの感覚を育てる。</p> <p>②費用対効果の高いグッズ作成スキルと考え方を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・グッズ作成をするだけでなく、なぜデザインが必要なのか？なぜ高いデザインスキルを身に付けなくてはいけないのか？というマインドを育てる。</p> <p>・グッズ作成をする上で必要な幅広い知識を身につけ、マーケティングの知識、SNSでの発信方法、またそれに伴う影響力も学び考えることで、プロダクトデベロップメントという枠を「広報の知識」と広域に捉え、より実戦的なスキルが身につくことを目指す。</p> <p>・イラストレーターでの簡単なデザイン作成。一般的なマーケティング知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	広告・マーケティングとは何か？ 予算がなければ動かせない。
【前期】 4～7回目	デザインの基礎知識。プロミュージシャンはどんなデザインのもの売っているか？(リサーチ)
【前期】 8～10回目	実際にデザインに触れてみる。企画力を養う。
【前期】 11～13回目	デザインと企画を体感してみる。SNSの活用法を学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業内容からの筆記試験を実施。内容を理解しているかを問う。
【後期】 18～20回目	イベントを企画する。
【後期】 21～24回目	名刺のデザインとセルフブランディング。
【後期】 25～27回目	セルフブランディングを活かして自分のロゴを作る。
【後期】 28～30回目	学校のオフィシャルグッズを手がける。
【後期】 31～34回目	■後期試験：記述式試験を実施。仮想バンドの立ち上げ、活動内容などまで細かく設定させることで、イメージ力を評価する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グッズ作成をする上で必要な幅広い知識を身につけ、マーケティングの知識、SNSでの発信方法、またそれに伴う影響力も学び考えることで、プロダクトデベロップメントという枠を「広報の知識」と広域に捉え、より実戦的なスキルを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	広告デザイン I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	デザイン I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<p>絵画教室講師、3DCG映像制作会社勤務を経て、現在フリーランスのイラストレーターとして活動中。 大手食品メーカー店内イラストや冊子挿絵、様々なパンフレットデザイン等、幅広く制作。 作家として、ライブペイントや個展・グループ展も開催。その他、デザイン系専門学校講師兼任。</p>				
授業概要	<p>Adobe Illustrator、Photoshopの基本操作や応用方法を身につけ、DTPについて実習を行う。 Adobe Premiere Proを使用し、学内イベントのLIVE映像の編集技術を身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DTPに必要なPC技術を学ぶ。 ・フライヤーやグッズなど入稿作業を身に付ける。 ・色やフォントの効果を理解し、目的に沿ったデザイン表現が出来る。 ・作りたいものをそのまま形にすることが出来る。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	「Illustrator 基本操作・練習問題」図形・柄・複製 等。
【前期】 4～7回目	「ネームプレート制作」オープンキャンパス時に実際に使用されることを想定し、制作する。
【前期】 8～10回目	「Photoshop 基本操作・練習問題」写真の切り抜き・レタッチ 等。
【前期】 11～13回目	「コラージュ」的確に選択ツールを使いこなし、解像度やカラー補正を行う。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験「ツアーフライヤーデザイン」 文字組みやアウトライン等、入稿を意識したデータ作り。
【後期】 18～20回目	「Premiere Pro 基本操作」シーケンスの設定・カット・不透明度・エフェクトの種類 等。
【後期】 21～24回目	「テロップ入れ」文字デザインから走り書きアニメーションまで。
【後期】 25～27回目	「ステッカー製作」手描きのイラストをPhotoshopで加工、原寸データの作成、パッキングまで。
【後期】 28～30回目	「ロゴマークデザイン」架空店舗のロゴを製作。完成後、写真に合成をする。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験「メニュー表制作」 文字の優先順位を考え、装飾まで制作する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Adobe Illustrator・Photoshopは、フライヤー制作や写真の加工をベースに、アイコン・ヘッダーの作成から動画の素材等、幅広くデザインすることが出来ます。よって、どのような業界であってもAdobeソフトを扱えることは大変武器になります。様々な制作物に取りかかる中で操作を覚えることはもちろん、デザインコンセプトまで説明出来るよう考えながら制作していきます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作基礎 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	企画制作基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	(株)Applause代表、米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネジメントまで幅広く活動中。 上記の経験を活かし企画制作における実践指導を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディーチームを意見交換することで、その専門性を活かし、また制作陣の納得と観客の感動が、同一価値観で結びつく内容を企画する。</p> <p>②創作側、演者側の心情まで授業を通じて迫り、今後のアーティストを支える制作業務として大きな経験を積む。</p>					
到達目標					
<p>・イメージする内容を、白紙から創造、具現化する道のり困難さと、喜びを体感し、その作品が、高品質なエンターテインメントであるということを学ぶ。</p> <p>・音響、照明、ローディー、マネージャーなどと共同による白紙からの企画制作、制作側から演者側に内容を提案、制作陣が強い結束するためのフィールドワークとプロセス重視、出来上がった作品の完成度2グループによる企画、構成、演出を経験する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イベントの基礎知識。
【前期】 4～7回目	前期企画イベントのアーティスト選定。
【前期】 8～10回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【前期】 11～13回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【前期】 14～17回目	■前期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期企画イベント終了を受けて検証。
【後期】 21～24回目	後期企画イベントのアーティスト選定。
【後期】 25～27回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【後期】 28～30回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【後期】 31～34回目	■後期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大胆な発想の企画を具現化する為には、周囲の賛同とともに多大なエネルギーを必要とするが、粘り強く考え、会話し、前進することで、実現可能という経験を身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	企画制作応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	(株)Applause代表、米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネジメントまで幅広く活動中。 上記の経験を活かし企画制作における実践指導を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディーチームを意見交換することで、その専門性を活かし、また制作陣の納得と観客の感動が、同一価値観で結びつく内容を企画する。</p> <p>②創作側、演者側の心情まで授業を通じて迫り、今後のアーティストを支える制作業務として大きな経験を積む。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
到達目標					
<p>・イメージする内容を、白紙から創造、具現化する道のり困難さと、喜びを体感し、その作品が、高品質なエンターテインメントであるということを学ぶ。</p> <p>・音響、照明、ローディー、マネージャーなどと共同による白紙からの企画制作、制作側から演者側に内容を提案、制作陣が強い結束するためのフィールドワークとプロセス重視、出来上がった作品の完成度2グループによる企画、構成、演出を経験する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イベントの基礎知識。
【前期】 4～7回目	前期企画イベントのアーティスト選定。
【前期】 8～10回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【前期】 11～13回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【前期】 14～17回目	■前期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期企画イベント終了を受けて検証。
【後期】 21～24回目	後期企画イベントのアーティスト選定。
【後期】 25～27回目	アーティスト～交渉、クラス内の体制作り。予算作成、概要作成、時系列作成、広報資料作成。
【後期】 28～30回目	イベント当日に向け、イベント内容を吟味し、台本等資料作成。出演者資料作成。制作(音響、照明)チームへの連絡。
【後期】 31～34回目	■後期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大胆な発想の企画を具現化する為には、周囲の賛同とともに多大なエネルギーを必要とするが、粘り強く考え、会話し、前進することで、実現可能という経験を身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡にある自身のイベント管理会社にて、ステージマネージメントやプロデュース業務をメインとし、イベント制作や企画などのサービスを行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識。
【前期】 4～7回目	制作スタッフの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の実習、タイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKIに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの回収、各オペレーターに依頼、打ち合わせ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのタイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【後期】 21～24回目	授業内で行った実習に対して反省及び改善。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにタイムスケジュール作成、進行、舞台監督、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡にある自身のイベント管理会社にて、ステージマネージメントやプロデュース業務をメインとし、イベント制作や企画などのサービスを行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識。
【前期】 4～7回目	制作スタッフの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の実習、タイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの回収、各オペレーターに依頼、打ち合わせ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのタイムスケジュール作成、進行、舞台監督など。
【後期】 21～24回目	授業内で行った実習に対して反省及び改善。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにタイムスケジュール作成、進行、舞台監督、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、計画立案、タイムスケジュール作成、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。